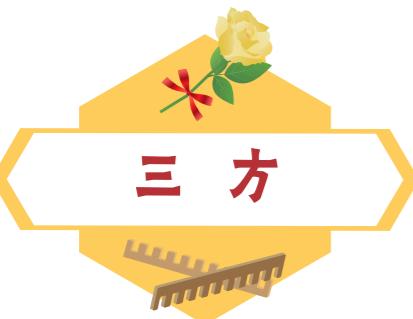


まだあるがね！名古屋の伝統工芸！



三方とは

神道の神事で使われる道具のひとつで、その昔はお殿様への献上の品をのせたり、節句事の設えなどでも使われている1000年以上歴史がある道具です！主に地元の桧材が使われ、ここ名古屋では長野県木曽郡から産出される木曽ヒノキを使って今でも作られています。



イベント内容

無垢材を使った組子体験

日本では昔から木造建築などで多く使われてきた技法【組子】。木の伸縮性を活かして、釘や接着剤を使わず組み上げる事が出来ます。自由な発想でいろんな形を組み上げよう！

かんなくずで作ろう！

花のアロマディフューザー製作体験

木の表面を鉋仕上げする際に出る鉋屑(かんなくず)。普段は廃材になってしまいますが、ひと手間かけてあげる事で素敵なアイテムに変わります。鉋屑を折り紙の様に折って・切って・接着して、1輪の花を咲かせるワークショップです！見て楽しむだけではなくアロマディフューザーやリードディフューザーとしてもお使い頂けます。



名古屋黒紋付染とは

紋章は、平安時代に発生し牛車や衣服に付けられ、のちに武家の目印になりました。現在は、紋章を付けた衣服は、礼装用となっています。名古屋の黒紋付染は、白生地を紋章の部分を残して黒で染め上げ、白く残した部分に紋章を描いていきます。黒染めの工程で、紋型紙、紋当金網を用いる名古屋黒紋付染は、黒の美しさ、黒が色褪せにくいと高く評価されています。



イベント内容

家紋刷り体験

黒紋付についている家紋。現代多くの方が忘れてしまっている日本の文化。少しでも多くの方に思い出してもらえるよう家紋を刷るワークショップを行います。

やり方は、私たちが選んだ60種類の家紋の中から家紋を選んでもらいます。自分の家紋がなかったらごめんなさい。色を金、赤、青、黄、黒の中から選びます。あらかじめ白く紋の形を抜いた黒のハンカチを用意します。

紋の形の上に紋の型を置いて、先ほど選んだ色で家紋を刷ります。あとはドライヤーとアイロンを使って乾かして完成です。

少しでも家紋の文化が広がっていっていただければと思います。



楽しく体験してみよう

in オアシス21



名古屋提灯とは

提灯の歴史は古く、遠く室町時代にさかのぼるといわれ、江戸時代には盆供養に提灯を使う風習が生まれ、盛んに作られる様になりました。名古屋提灯は、明治初期には貴重な輸出品としても販売され、全国一の生産を誇った時期もあったといわれます。昭和30年代以降、宣伝媒体やお店のディスプレイ用として提灯が盛んに使用され、並行して欧米向けの家庭用ランプシェードとして爆発的な需要が生じた時期もありました。その後、観光地のお土産用ミニ提灯のブームを経て、現在は盆提灯、観光土産用、祭礼・神社仏閣用、飲食店の看板用などの提灯が主に生産されています。



イベント内容

提灯制作体験

白無地ちようちんに絵柄の和紙をのりと刷毛で貼ります。和紙の配置、色や柄は自分オリジナルのデザインでお洒落なちようちんが作れます。



有松・鳴海絞とは

有松・鳴海絞は、約400年前名古屋城築城の時豊後の国（大分県）の人々から伝わったといわれています。近い地域に知多木綿、三河木綿などの産地があり綿の反物が入手しやすく、絞り染めの浴衣や手ぬぐいなどがよく作られてきました。これらの品々は東海道の土産物として重宝され、その繁栄ぶりは当時の浮世絵などにも多く描かれています。この地域で産み出された絞りの技法は100を超えて、世界的に見ても突出した絞りの産地となりました。1975年には国の伝統工芸品に認定されています。



イベント内容

雪花絞り体験

有松・鳴海絞の技法の中の一つ、雪花絞りの手ぬぐいをご自分の手で作っていただきます。

長さ1mの知多木綿の手ぬぐい生地を正三角形にたたみ、板で挟んだ後、藍色の染料で染め上げます。

正三角形のどの部分をどれくらい染めるかで、

雪花絞りの代表的な4柄を染め分けることができます。

